

高畠高生の活躍

山形新聞にある「若者の声」に、本校 1 年次生の木村梨央さんの文章が掲載されました。

「部活動の地域移行」について、現時点での課題に焦点をあて、自身の考えを的確に論じています。

若者の声 高畠高

「地域移行」生徒を一番に

■ 1 年 木村梨央

「部活動の地域移行」という言葉を最近よく耳にする。私の住んでいる上山市でも徐々に地域移行が進んでいるらしい。私は、部活動を地域移行するに当たって問題がたくさん出てくるのではないかと思う。私が最も大きな問題だと



感じたのは「部活動に適した指導員の確保」だ。その中でも「生徒と良好な関係を築くこと」が課題だと思う。

昨年、他県では「部活動外部コーチと生徒が性的関係があった」「顧問とコーチの仲が悪く、意見が異なるとけんかになり、生徒が困る」などの事例があった。もし部活動が地域移行し、地域の方に任せるのであれば、問題が出ることもあるかと思う。

そこで山形県内では指導者研修会が開かれているそ

うだ。指導の技術だけでなく、部活動の意義や基本的な考え方を理解してもらい、適切に生徒の指導に当たる人材を養成することが目的という。

私は教員の働き方改革として地域移行は良いと思う。その上で指導者の育成が最も大切だと思った。地域移行を進める上で、ハラスメントのような問題がもっと出てくるのであれば、教員免許のように免許制などにしていかなければいけないと思う。教員の働き方改革か、生徒の安全か、大切なのはどちらなのだろう。高校生の私としては、生徒の安全を一番に考えてほしいところだ。

紙面編集・手塚秀雄

令和7年1月22日(水)「山形新聞」から